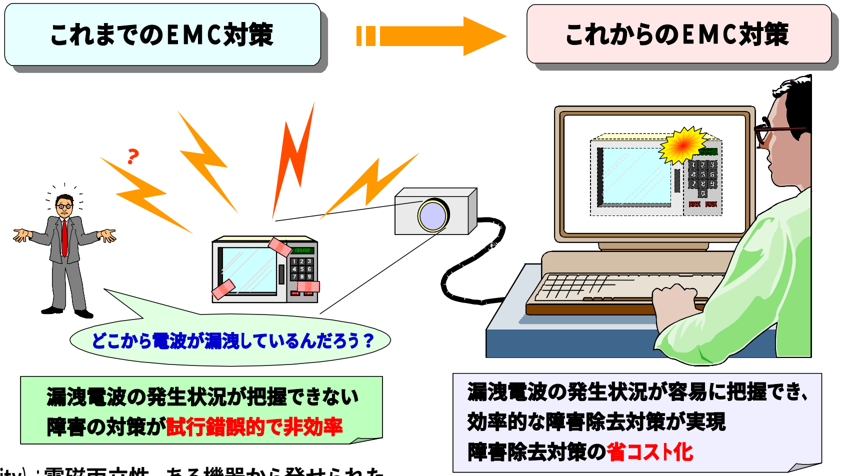
3（2）① 安全・安心な無線通信環境の構築（電波の安全性）

MIC

携帯電話端末等による電波の人体への影響や電子機器への影響（誤作動等）を解明・解消するため、強制規格やガイドラインの策定の他、影響の定量化・測定方法の標準化等により安全性を確保。

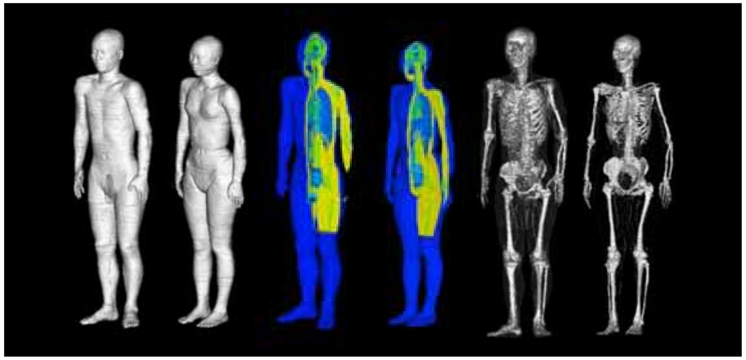
電子機器から漏洩する電波の三次元可視化技術の研究開発



※EMC（Electromagnetic Compatibility）：電磁両立性。ある機器から発せられた電波の影響（電界・磁界）を受けずに、他の機器がきちんと動作すること。

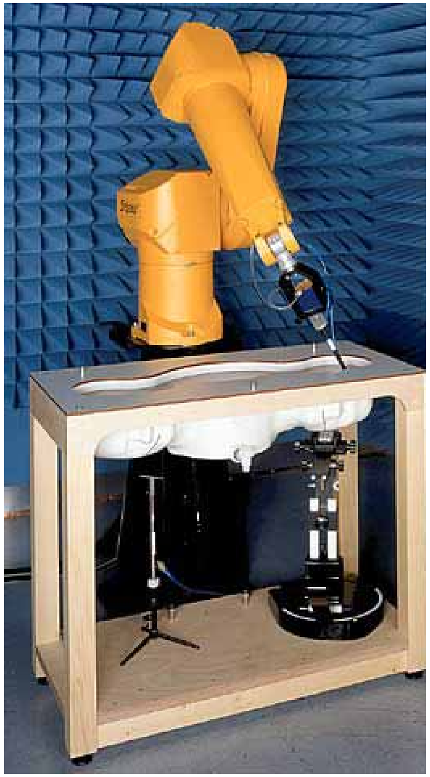
電波の人体吸収を推計するための人体数値モデルの開発

- 日本人平均体型を有する成人男女の数値モデル）
- NICTと北里大学、慶應大学、東京都立大学の共同研究



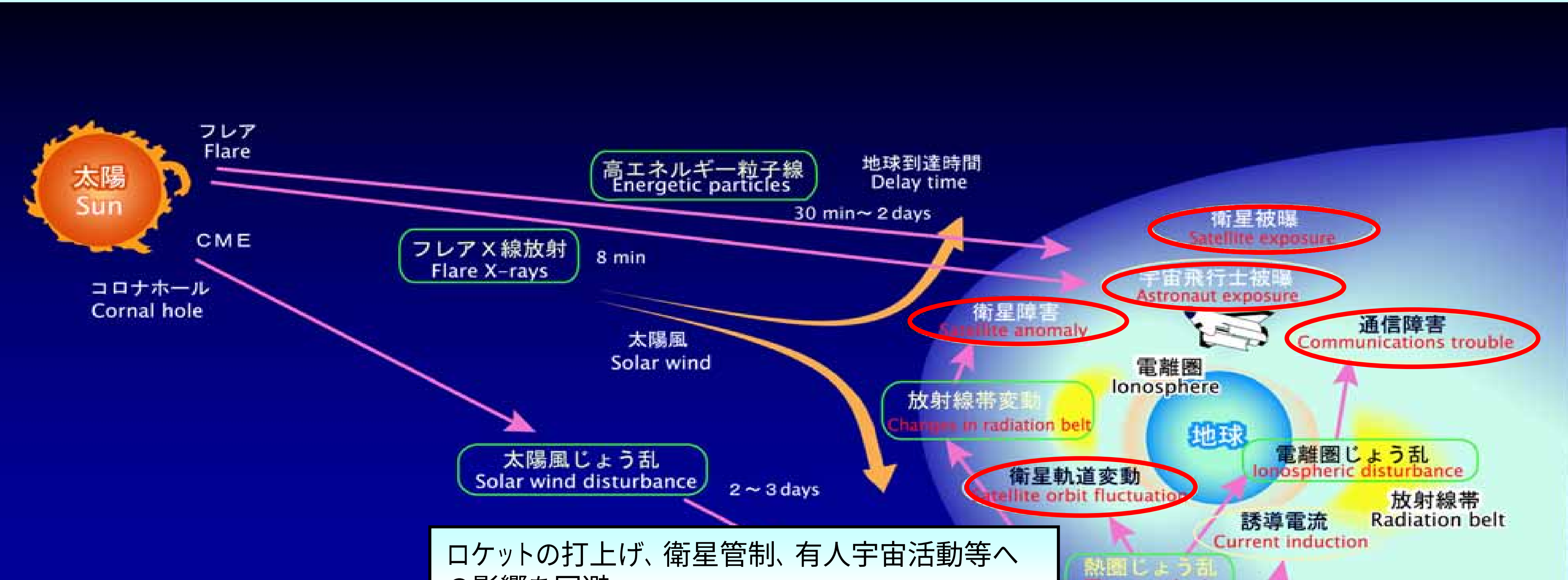
頭部SAR（比吸収率）測定装置

日本、米国、欧州等で同一の測定法を採用
測定法の標準化／較正法に関する研究



3（2）② 安全·安心な無線通信環境の構築（宇宙天気予報）

宇宙環境が人工衛星や通信システムへ及ぼす影響を予報



ロケットの打上げ、衛星管制、有人宇宙活動等への影響を回避

- **宇宙放射線、電離圏等をモニタリング**
- **シミュレーションし、宇宙天気予報を発信**

世界の宇宙環境観測·予報拠点

毎日14時30分より予報会議を開き、太陽フレア、地磁気嵐、電波伝搬予報を発信している。
テレホンサービス1300件/月； Webアクセス10000件/月
電離層月報250部×12月